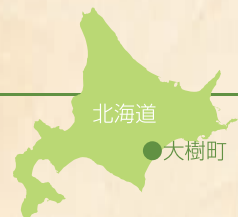




コントラクターとサイマスターで、 良質サイレージを実現!



北海道大樹町芽武
(有)ミズノ 水野政一さん

十勝の南部に位置する大樹町。依田勉三の率いる晩成社が牧場を開いた土地として知られている。この地で開拓期から続く3代目として酪農業に取り組むのが、(有)ミズノの水野政一さん。高品質のサイレージづくりを成功させたと聞いて牧場を訪ねた。



幅10×奥行40×高さ2mのバンカーサイロ。全部で4基設置

台使ってね。踏み込みなら恐らく大樹一番だと思ふな」

バンカーサイロは空気にさらされる表面積が大きく、踏圧による圧縮が欠かせないが、建設業者ならプレスの作業はお手のもの。機械の操作も慣れているし、すべて任せてあるという。

新製品のサイレージ用乳酸菌「サイマスター」をいち早く試用

しかし問題は天候不順。「コントラの業者さんも天気予報をチェックしてスケジュールを決めてくれるけど、どうしても作業が集中してしまう」ため、刈り取る牧草の水分が多くなってしまおうという課題があった。

昨年、刈り取りしたのは6月下旬だが、上旬に雨が続いたため、天気がようやく回復した隙を狙っての収穫だった。

「だから、うちの場合、あんまり予乾(予備乾燥)ができない。雪印の営業さんに『高水分に威力を発揮する乳酸菌がある』と聞いたから、一度試してみようかなと…」

それが、昨年に発売になったばかりのサイレージ用乳酸菌「サイマスター」だった。

「名前もちゃんと知らないで使ってたんだけど(笑)。思いがけず結果がよかったんだよね」

コントラクターの業者に頼み、自走式ハーバスターにホッパーを取り付け、ガ

建設業界と組んで コントラクターを事業化

(有)ミズノは、水野政一さんと奥様の友子さん、長男の穰治さんの3人で、切り盛りする典型的な家族経営。搾乳にパートを一人頼んではいるものの160頭の牛がいるため、作業効率を考えて畑作業は、コントラクターを利用。ふん尿の処理も業者に依頼している。

「大樹町のコントラクター事業は農協主体ではなくて、地元の建設業界と組んでいる珍しいケースなんです。始まってもう7～8年になりますかね。建設会社の雇用対策という意味合いもあるんです」

(有)ミズノでも刈り取りから運搬、鎮圧まで一括で請け負ってくれる土建会社に依頼。短期間で作業を終わらせている。

「土建屋さんだから、バンカーサイロの踏み込みがすごいんだわ。作業機2



《プロフィール》
水野政一さん(61)、友子さん(60)のご夫婦と、長男の穰治さん(28)、家族3人で営む(有)ミズノ。開拓期は畑作を手がけ、乳牛を飼いだしたのは政一さんの先代から。昭和45年頃から酪農一本に絞って経営し、現在は総頭数160頭(搾乳牛140頭)を飼養している。農地120haはほとんどが飼料畑で、そのうちグラスが100ha、デントコーンが20ha程度。ほかに家族は穰治さんの妻、智加さん(28)と1歳のお孫さん。いまは子育てに専念している。



(写真:左)サイレージが地層のように積み重なっているのは、ていねいに圧縮してある証拠と穰治さん
(写真:中上)牛の食いつきも良好。餌寄せはロボットを導入して省力化。
(中下)飼料タンクの後ろにみえるベンガラ色の建物がミルクングバーラー。
(右上)トラクターに連結させているのは、飼料を混ぜるミキサー。エサは1日分で約8トン

ンディ式添加機で顆粒状のサイマスターを草にまぶしながら刈り取る。すぐに刻んでバンカーサイロに積み上げ、徐々に圧縮していくのが水野さんの使い方。「もうダイレクトに近いんだ」という通り、予乾ができないせいで、これまでは酪酸発酵してしまうことも少なくなかった。

サイレージの分析評価で、酪酸の数値がゼロに

「酪酸が高いと臭いがひどい。臭くて手に取れないくらい。服にも染みついてしまうし…。それが今回は違うんだよ。昨年末にサイロを開封してみたら、甘酸っぱい、いい香りだね。分析に出したら酪酸がゼロ。我々も安心したわけさ」と、安堵の表情を見せる政一さん。息子の穰治さんも「牛もよく食べるし、乳房炎も少ないんじゃないか」と補足してくれた。

もちろん、これまで他社の添加剤を使ったこともあれば、アクレモ(以前に弊社が販売していた乳酸菌アクレモコンクの事)を使ったこともあったが「酪酸はなんぼか出ていた」そう。数値がゼロになったのは初めてのことだ。

「特に水分の多いときはギ酸を使ったこともあったんだわ。今はもう使ってないな」

サイマスターによる乳酸発酵が漬物やヨーグルトだとしたら、ギ酸はいわばピクルス(酢漬け)。傷みづらいが、そのぶん風味は落ちてしまう。牛にとってどちらがうれしいかは言わずと知れたことだ。

牛舎新築後、6年続けて乳量がアップ

畑作業のアウトソーシングやサイレージづくりの工夫などもあって、(有)ミズノでは生産量が右肩上がりでも伸びている。

以前は先代から受け継いだつなぎ牛舎を使っていたが、平成18年秋にフリーストールの牛舎を新築。パーラー搾乳に切り替えて7年目になるが、これまで前年度も前月も下回ることなく乳量を増やしてきた。

「いまは牛舎を新しくしたときの目標にほぼ達したところ。年間の搾乳量は1560トン。搾乳牛が135~140頭だから1頭当たり11千キロはクリアしている。それに、自分ではあまり意識してないけれど、年間の乳量の波が少なく安定していると言われるんだ」

乳量のバラツキが少ないのは、種付けが上手ということ。きめ細かく牛のコンディションを見ているからだろう。

政一さんに今後の経営について尋ねると「全般的に牛も増えちゃっているし、労力も限界にきているから、今はちょっと様子をみたほうがいいかなって気がしている」との答え。「まあ、そのうち代替わりの時期がくるから」と後継者の成長にも期待を寄せる。政一さんの右腕として活躍する穰治さんは、帯広農業高校を経て帯広畜産大学の別科を卒業し、帯広で2年間酪農ヘルパーを経験。平成19年の春に就農して6年目となる28歳。牛の改良も手がけ、町内や十勝の共進会などにも積極的に出品する勉強家。(有)ミズノにとってももちろん、大樹町にとっても頼もしい存在に違いない。

(取材日/2013年1月22日)



サイレージ発酵の達人 「サイマスター」

添加してから1日で1万倍に増殖する球菌と、発酵後半でも高い菌数を維持する桿菌を含有。牧草由来のダブルの乳酸菌でおいしいサイレージをつくります。



トラクターでエサを与えられるフリーストール牛舎